

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3870102914
法人名	特定非営利活動法人グループホームしいのみ
事業所名	グループホーム紫竹庵
所在地	松山市山越2丁目11番地35号
自己評価作成日	平成26年7月23日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成26年10月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

グループホームに入所をしても誰もが自分家だと思える環境を作っています。一般住宅の改修型で、外観も内装も普通の家と全く変わりはありません。職員も利用者さんと同じように過ごす為、来訪者の方が談話室でキョロキョロと職員を探すほど溶け込んでいます。地域の皆様からも認知されていき、お年寄りの困り事や駐車場の紹介までなんでも相談に乗れる地域に溶け込んだホームとなっています。理念の「寄り添いあい、笑いあう、マイホーム」の通り利用者さんも自分の家・地域のように過ごして下さっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

それぞれの居室からは、南側の和風の庭が見え、松や紅葉、お花が眺められる。ご家族からいただいたお花も地植えにして、利用者が居室から見えるよう配慮されている。北側の窓からは畑がみえ、利用者は農作業する方と会話等を楽しまれている。毎日ふとんをたたむ習慣のある方には、職員がサポートして続けられるよう支援されている。お天気の良い日には 利用者の布団を順番に干しており、気持ちよく眠れるように支援されている。

職員は、利用者自身でできることは見守ったりサポートして支援しており、洗濯一連の作業を行ったり、ふとんを干す方もいる。台所で、お湯を沸かしコーヒーを楽しむ方もある。調査訪問日の昼食の時間には、利用者が、他利用者の配膳やお茶の準備等を手伝っている様子が見られた。

いただいた野菜や冷蔵庫の食材をみて、利用者と献立を考え食事を作ってあり、利用者は野菜の皮むきや味見、盛り付け等、一緒に行っておられる。利用者が車いすを使用する方の配膳等を手伝ってあげるような場面がよく見られた。

・サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） 項目 1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 該当するものに 印	取 り 組 み の 成 果 該当する項目に 印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目：11,12)
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目：28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- .理念に基づく運営
- .安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- .その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- .その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

用語について

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

運営者 = 事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

職員 = 「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

チーム = 一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

- サービス向上への3ステップ -

事業所名 グループホーム紫竹庵

(ユニット名) _____

記入者(管理者)

氏名

菊池仁美

評価完了日

26年 7月 23日

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
理念に基づく運営				
1	1	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所 理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有 して実践につなげている	(自己評価) 職員は理念を共有し、利用者が思い思いに過ごせる事業所 作りに努めている。利用者からも「ここは私の家」という言葉 をもらい、地域の方からも昔ながらのような気軽に声を掛け合 う関係を作れている。	
			(外部評価) 2年前に職員で話し合い、「寄り添い・笑いあう・マイホーム」 という理念をつくっており、事務所や居間に掲示されている。 事業所内研修時等には、ケアについて理念と照らし合わせ ながら確認されている。	
2	2	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられる よう、事業所自体が地域の一員として日常的に 交流している	(自己評価) 地域のイベントにはいつも声をかけて下さり、いろいろなこと に参加させていただいている。提灯行列の時には利用者と 職員で子供達におもちゃを渡しに行き、子供達との交流を することもできた。職員は地域の方々から顔を覚えていただ き花や野菜のおすそわけをいただき、ホームの皆で楽しんで いる。	
			(外部評価) 近くの大学グラウンドで、地域のイベントがよく行われており、 七草がゆや秋祭り等に利用者も参加できるよう支援されてい る。又、公民館での敬老会や近所の小学校で行われる文化 祭にも出かけて楽しめるよう支援されている。散歩中に、顔 馴染みになった近所の方から、野菜や花の苗をいただいたり する。以前、ひとりで散歩中に迷ってしまった利用者があり、 近所の方からの情報によって早くに発見できたことがあつ た。大学生のボランティアも多く来られており、利用者とラン プ等して交流されている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症 の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向 けて活かしている	(自己評価) 運営推進会議を中心に地域の方々に認知症の勉強会を 行っている。地域の方からも良い評価を頂き、毎回参加をし て下さる方も増えてきている。身内や近所の方など認知症で 困っていることや相談ごとなど気軽に話して下さる関係作り ができている	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 会議ではホームで起きた事例を表発し、皆様から意見をいただいている。地域の良いところなどを紹介していただき、利用者にも活用できるものがないか話し合っている。</p> <p>(外部評価) 会議には、近所の方や大学生等が参加されている。会議では、介護等に関するその時々ニュースを取り上げ話題にされている。又、参加者からお花のきれいな場所や見頃の時期を教えてもらっており、事業所で作っている地域マップに示されていた。管理者は、ご家族の負担にならないよう気配りしながら、毎回会議の案内をしているが、都合により会議参加については難しい面もあるようだ。今後も時間帯や会議内容等に工夫し、参加への声かけを続けていかれてほしい。</p>	
5	4	<p>市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議に出席していただき、事業所の取組みを見ていただいている。質問ごと等の時には連絡をすればいつでも答えて下さり市社協からは介護相談員を受け入れ、利用者の方々と接して実情を把握していただいている。研修生の方と来所されたり互いに協力関係を築けている。</p> <p>(外部評価) 地域包括支援センター主催の研修会に参加して、事業所間の災害時の連携等について話し合われている。</p>	
6	5	<p>身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 月例会議や研修を通し職員全員が身体拘束の具体的な内容を理解している。ギリギリまで身体拘束をしないで生活できる方法を職員間で話し合い、身体拘束が必要になっても拘束時間を減らせるようケアに取り組んでいる。</p> <p>(外部評価) 職員は、事業所内研修の中で身体拘束について勉強されている。歩行が不安定で転倒が心配される方には、ご家族と相談して、ベッドを敷きマットに替えたり、おむつの中身を口に入れるような方には、ご家族と相談して、現在は、つなぎの服にTシャツを重ね着して対処している。つなぎ服を着用する方の今後の支援については、利用者の立場に立って話し合いを重ね、ご家族とも相談しながら検討を重ねていかれてほしい。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 研修や会議などで具体的な事例をもとに虐待について学ぶ機会を作っている。日々のケアでも虐待がないか利用者、家族の状態を見過ごす事の無いよう努めている。	
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 成年後見制度を利用している方が入居者様の中にいるため、一部の職員は理解をしているが、まだ理解していない職員もいる。まずは職員全体が学ぶ機会をもうけ、その後活用できるようにしていきたい。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 利用者、家族にホームでできること、できないことを十分に説明をし、理解、納得が得られてから契約を行っている。不安や疑問点が発生した時にはその都度説明を行っている。	
10	6	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 介護相談員より、利用者が職員には話し辛い内容などを聞き、報告書により知らせていただいている。ご家族からは来所時や、お手紙、電話にて意見や要望を聞き運営に反映させている。	
			(外部評価) ご家族には、毎月のお便りに外出の写真等を添付し、さらに職員からのメッセージを添えて日々の様子が報告されている。ご家族来訪時にはお話する時間を持つようにしており、職員が利用者の暮らしぶりを報告したり、ご家族からケア等への要望等を聞き取っている。ご家族の中には、利用者が認知症であることを受け入れることができず、利用者に会うことをためらうような方もあったが、職員は、利用者への接し方等について相談に乗ったり話し合いを重ね、ご家族の来訪が、じょじょに増えてきているようだ。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 日々の申し送りの時や、会議などで職員は気軽に意見、提案を挙げている。すぐに回答できるものに関してはその場で回答、反映させ、すぐにできないものに関してもなるべく早くに代表者と管理者で話し合いをし、業務に反映させている。 (外部評価) 毎月の法人合同研修会と、事業所内でも毎月研修会を行い、職員のスキルアップに努めておられる。研修会は、「成年後見人制度」「口腔ケア」「ケアプランの立案」「避難訓練」等のテーマを決め、関係各所からビデオや資料を集めて行われている。日々のケアで発生した問題については、その都度話し合われている。話し合った結果は、申し送りノートにて職員間で共有する仕組みになっている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 業務内外でも職員一人一人と会う機会を設け、個々の希望を聞いてくれる。個々の仕事へのやりたいことを理解し、働きやすい労働時間や環境を作るよう努めてくれている。	
13		職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 職員一人一人の技量を把握しており、職員からも声が上がれば法人内で早急に研修会を開きトレーニングできる機会を作ってくれる。法人外での研修にも受けやすいよう時間の確保などに努めてくれている。	
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 法人外での研修に積極的に職員を参加させてくれることにより、同業者との交流をする機会ができています。代表同士の交流に職員を混ぜてくれる為、イベントごとや研修、講習の時に顔なじみの関係が作れ、ケアの方法や相談ごとなど話し合いサービスの質の向上に取り組んでいる。	
安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 初めの方にはゆっくりと傾聴を行い、信頼関係づくりに努めている。センター方式などを職員全員で自由に活用して情報共有に努め、本人の要望などを知るようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 利用を開始する際には、入所に至るまでの経緯や要望などをじっくりご家族から聞いている。入所後は、ご家族の要望がどのように反映され、どのように本人が過ごされているかを説明している。小さなことでも話し合いご家族に安心していただけるよう関係作りに努めている。	
17		初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人、ご家族とじっくり話し、まず必要としている支援を見極める努力をしている。医療とも連携し最も良い対応ができるよう努めている。	
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) できること、できないことを一人一人把握し、できることを職員が取ってしまわぬようにしている。仕事も一人の利用者に全て頼むのではなく、歩ける方に運んでもらい、歩けない方はテーブルで作業をするなど利用者同士助け合いながら関係を築いてもらっている。	
19		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人の状態を来所時やお手紙、お電話にてお伝えし、ご家族に協力をお願いしたりしている。本人の入所前の楽しみを継続させる為にご家族とカラオケに遊びに行かれたり、本人様の皮膚に合ったシャンプーをご家族と相談し購入をしたりして、本人をご家族と支えている。	
20	8	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 外出時等に本人の行きつけの場所や以前住まわれていた所に気軽に足を運んだりしている。顔見知りの関係となった近所住人、介護相談員、学生ボランティアとの交流も継続して行っており、今後も顔見知りの人が増やせるよう支援していきたい。 (外部評価) 以前から毎月、石手寺にお参りする習慣がある方には、入居後にご家族や職員が同行して、お参りを続けられるよう支援されている。利用者がお好きな食べ物をご家族に伝え、ご家族と一緒に外食する機会につなげたり、利用者の中には、敬老の日のお祝い金で、「交流のある大学生の方達と外食したい」という希望があり、レストランで食事を一緒に楽しむよう支援したこともある。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 利用者同士の関係を職員は把握しており、その時々に合わせて、仲良く関わり合えるよう支援している。仲良しの方々同士でお手伝いをしてもらい、助け合いながらされている。あまり仲の良くない利用者間や、利用者の機嫌が悪い時は無理に関わり合わせず互いの時間をずらしたり、職員が間に入りたりして集団でいれるよう努めている。	
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約が終了した後も家族と連絡を続け、相談ごとなどができる限り応えている。	
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 本人の言葉や表情等を日誌に記入し職員全員で共有することによりアイデアを出し合っている。利用者の状態が変わった時には会議を行い、その人一人一人の気持ちを優先的に考え、最善の案を実施している。 (外部評価) 利用者一人ひとりにファイルを作り、個々に身体状況や服薬する薬、好きなもの、苦手なもの、趣味等がわかるようになっており、災害時等に持ち出せるようにしている。入居時から、変化があるたび追記して現況を把握できるようにしている。	
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) アセスメントをいつでも見れるようにし、空いた時間に職員みんなで確認している。家族様からお話を聞いた内容も記録し、職員間で共有し把握に努めている。	
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 日誌に本人の言葉、表情、心身状態を記録する事により、申し送りでも次の職員にも伝わるようにしている。そして、新しい発見や普段とは違う様子があった時には、より詳しく情報を共有する為に月例会議で知らせ合ったり、書面で職員全員が見れるようにしている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	<p>チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している</p>	<p>(自己評価) 月例会議等で本人の困っていることや、良くしたいことを話し合い、必要に応じて聞ける方からは本人から意見も聞いている。ご家族様が来所した時には、現状と介護計画を説明しご意見をいただいている。医療的な課題が必要になった時には主治医に協力をお願いし、計画に意見を反映させている。</p> <p>(外部評価) 介護計画について内部研修が重ねられている。職員全員が計画作成にかかわる仕組みが作られており、計画に沿った支援をすすめることが、利用者の自立につながっている。アセスメントは、入居時からの変化が分かりやすいように、追記されていた。</p>	<p>現在、夜勤専門の職員を配置しており、今後はさらに、介護計画書等を活かして、日勤職員との情報共有や連携を図っていけるような取り組みに工夫されてほしい。</p>
27		<p>個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>(自己評価) 日々の様子やご本人の言葉を個別記録に記入し朝、夕の申し送りで共有している。ケアの実践が難しい場合はすぐに声をあげ、問題点を速やかに職員間で話し合いをしている。</p>	
28		<p>一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 日々変化する本人様の状態を把握し、別の支援が必要になった時には即座に対応している。ご家族には毎月送っているお手紙や、来所時に状況をお伝えし、ご家族のお気持ち、要望を聞いている。今後もできる限りのことを取り入れていきたい。</p>	
29		<p>地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>(自己評価) ご本人の心身状態を日々チェックしながら、その方に合った行動ベースを作り、一日が楽しみの多いものであるよう支援している。また、本人が自身の力を発揮できるような楽しみを職員間で話し合い、アイデアを出し合っている。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	<p>かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入居時に主治医、かかりつけ医のご希望を伺い納得、安心ができるよう支援している。専門病院の受診が必要になった時には、本人、ご家族、主治医、管理者で話し合い、適切な医療を受けられるよう支援している。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>日曜以外は協力医の往診があり、血圧や体調を診てくださっている。調査訪問時、管理者は、インフルエンザ予防接種の予定について医師と相談されていた。</p>	
31		<p>看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>(自己評価)</p> <p>介護中の気付きや異変、ご本人の訴え等はすぐに管理者を通して訪問看護師や主治医に伝え対応している。緊急を要する場合であっても24時間対応で受診や看護を受けられるような体制を連携している。</p>	
32		<p>入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>(自己評価)</p> <p>入退院時には管理者と病院側、主治医との連絡を密にとり、情報の共有、相談に努めている。できるだけ早期に退院できるように主治医、病院側からの意見をもらい支援の方法等の検討に努めている。</p>	
33	12	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>(自己評価)</p> <p>ご本人、ご家族と早い段階(入居時点)で重度化した場合の話し合いを持ち、終末期の希望を伺い、事業所でできることを十分に説明し、納得していただいている。終末期で24時間の医療が必要になった場合は再度本人、ご家族、主治医と話し合いを行い、心境の変化も共有し、チーム全体で支援に取り組んでいる。</p>	
			<p>(外部評価)</p> <p>協力医に協力を得て、看取りについて事業所内研修を行ったり、接し方を学んでおられる。現在、利用者は事業所で最期まで過ごすことを希望している。</p>	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 消防隊員の方を講師とし招き、事故発生時等の応急手当や初期対応の方法を教わったが職員の異動、退職に伴い実践力を十分に身に付けた職員は少ない。引き続き会議等で訓練を行い、実践力を身に付けていきたいと思う。	
35	13	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 毎月いろいろな災害を想定して避難訓練を行っている。消防署の方にも指導していただき、より安全でスムーズな避難方法を学んでいる。また、運営推進会議等を通じ、身体が不自由な方や認知症の理解を地域の方々から得られており常に協力の言葉もいただいている。	
			(外部評価) 年2回、消防署立ち会いのもと、避難訓練が実施されている。避難訓練時には、地震車や放水車に来てもらうことを事前に回覧板で知らせたところ、多くの地域の方の参加があった。夜勤専門職員は、災害時の対応について手順を分かっているが、実際の訓練参加には至っていない。	
.その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 育った環境や性格を理解し、誇りやプライバシーを損ねないよう一人一人に合った言葉かけや対応をするように努めている。	
			(外部評価) 職員は、利用者自身でできることは見守ったりサポートして支援しており、洗濯一連の作業を行ったり、ふとんを干す方もいる。台所で、お湯を沸かしコーヒーを楽しむ方もある。調査訪問日の昼食の時間には、利用者が、他利用者の配膳やお茶の準備等を手伝っている様子が見られた。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日頃の会話から思いやしたい事をくみとり、タイミング良く行動に移せるように支援している。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)	
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、 一人ひとりのペースを大切に、その日をどのよ うに過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価)	利用者一人一人の好みやペースを尊重し、ご本人の気持ち や体調に合わせたケアを行っている。外出や行事参加も無 理強いはずご本人の希望に沿った楽しみを支援してい る。	
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよ うに支援している	(自己評価)	季節に合った洋服をご本人と一緒に選んで好みに合わせて コーディネートをしたり、外出時には整容やお化粧をするな どの支援をしている。	
40	15	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好 みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に 準備や食事、片付けをしている	(自己評価)	旬の食材を使った料理を味わっていただいたり、調理法や 味付けを教えていただきながら食事が楽しくなるような会話 をし支援している。配膳や後片付けもそれぞれできる方に 各々お願いし、無理なく手伝っていただけるよう支援してい る。	
			(外部評価)		いただいた野菜や冷蔵庫の食材をみて、利用者と献立を考 え食事を作ってあり、利用者は野菜の皮むきや味見、盛り付 け等、一緒に行っておられる。利用者が車いすを使用する 方の配膳等を手伝ってあげるような場面がよく見られた。
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じ て確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣 に応じた支援をしている	(自己評価)	定期採血による栄養バランスの把握をしている。体重測定を 毎月行い、変動が無いか確認をしている。一日を通して食事 の内容のバランスをはかり、一人一人の好みと適量を提供し ている。水分を補給しにくい利用者の方には、本人の好みに 合ったコーヒーやジュース等を出したり水分の多い料理で水 分を摂れるよう支援している。	
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、 一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔 ケアをしている	(自己評価)	毎食後にできる方にはうがい、歯磨きの声掛けをし、清潔を 保持できるよう支援している。入れ歯の方は寝る前に預かり、 ブラッシング、洗浄を行い、朝に清潔な入れ歯を渡してい る。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) オムツや紙パンツ類は極力使用しないよう統一している。本人の行動を見て排泄のタイミングを計り、トイレ誘導している。失敗を減らし一人で排泄ができるようズボンを下ろしやすく洋服の着方を変えたり、膝が悪い方には夜間のみポータブルトイレを設置したりして支援している。 (外部評価) 民家改修型の事業所であり、トイレの広さに制限があり、車いすを使用する方には、脱衣所にポータブルトイレを置いて使用できるようにしていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 野菜中心の食事を皆様摂られ、水分補給をこまめに行っている。時間、タイミング、天気を見て、外出したり、室内で出来る体操をしたりと運動不足にならないよう工夫している。月例会議等を利用し個々の便秘予防に適した方法を共有し、毎日実践している。	
45	17	入浴を楽しむことのできる支援 一人一人の希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援を行っている。	(自己評価) 長湯が好きの方、念入りに洗いたい方、一番風呂が良い方、それぞれの希望に沿って支援している。入浴の拒否がある方には無理をせず信頼関係を築いたり、入浴後の楽しみを見つけて納得してもらい入っていただけるよう工夫している。 (外部評価) お好きな時間に入浴できるよう支援されている。現在は、朝風呂が人気ようで、利用者は「入居前には考えられない」と喜ばれるようだ。入浴に気が向かない方には、草引きの後「汚れたから洗いましょう」と声かけして入浴につなげることもある。	民家改修型事業所でもあり、浴室の広さや造りに制限があり、職員の介助についても難しい面もあるようだ。今後さらに、利用者や職員の負担軽減に向けて用具等も工夫されてみてはどうだろうか。
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 休息が必要な方は時間やタイミングを見て声掛けをし、自室で休んでいただいている。夜間は個々の体温調節が異なるので、心地よい眠りを提供できるよう空調や道具に気を配っている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬に関しては管理者が管理し、正職員のみが利用者への支援を行っている。支援と症状の変化については朝、夕の申し送りでも聞き取り、主治医に報告し必要に応じて調整をしている。	
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) ドライブ、買い物、散歩など、ご本人の今やりたい事への支援に努めている。学生ボランティアの受け入れを行っており、大人数での外出や、季節の行事などを一緒に楽しんでいる。	
49	18	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 天気とご本人の体調を見計らい、散歩やドライブに行くよう努めている。本人から希望先を言われた時には記録をし、必要な計画を立ててから外出をしている。遠い所は人手やご本人の体調に合わせて行っている。ご家族と話し合い、ご本人とご家族で外出していただいたりしている。	
			(外部評価) 日常的には、近くの公園まで運動もかねて散歩されており、散歩が好きではない方には、ドライブに誘い、海やお花を見るような機会を作っている。月に1度は買い物を兼ねて外食を楽しむ機会を作っている。仲良しの利用者同士でご自宅近所のお好み焼きを食べに行くことができるよう支援したり、利用者のことで市役所に用事がある時には、利用者も一緒に行けるよう支援されている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 金銭管理はできないが、ご本人から買い物の希望の声が上がれば職員と一緒にいき、買い物の喜びを感じてもらえるよう支援している。	
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 掛けたい時には電話を利用していただき、ご家族からの電話はご本人に代わったりしている。塗り絵の作品や、月に一度送る写真の空欄部分を活用し、家族へのメッセージを書いていただいている。	

自己評価及び外部評価表

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>夏には風通しの良い所、冬には陽射しが暖かい所と、季節や利用者の状態に合わせて共有空間のレイアウトを変えている。季節の花を活けたりし、利用者に喜んでもらえるよう工夫している。主治医や外部から来られる介護相談員の意見も取り入れ心地良い空間作りに努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>居間の窓からは自然光が入り明るくあたたかい。居間にはテーブルやいす、ソファが配置されており、職員が使用する書類類は一所に小さくまとめており、一般家庭の生活の場の雰囲気をこわさないような配慮がなされている。台所は対面式で、利用者は、台所で食事を作っている職員とおしゃべりしながら過ごしておられた。</p>	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>テーブル席やソファをその時々に合わせて移動し、一人一人が思い思いに過ごせるよう工夫をしている。一人でゆっくりされたい方には外が見えやすい場所やテレビが見やすい場所を作ったり、仲良しさんと話したい方には二人掛けソファでゆっくり過ごされたりしている。</p>	
54	20	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価)</p> <p>始め入所される際にご家族、本人と相談し、本人が使っていた家具など思い入れのある品を持ってきてホームでも使用していただいている。本人が好むものを理解し、本人と相談しながら写真、花、人形などを思い思いに飾って心地良い空間作りに努めている。</p> <p>(外部評価)</p> <p>それぞれの居室からは、南側の和風の庭が見え、松や紅葉、お花が眺められる。ご家族からいただいたお花も地植えにして、利用者が居室から見えるよう配慮されている。北側の窓からは畑がみえ、利用者は農作業する方と会話等を楽しまれている。毎日ふとんをたたむ習慣のある方には、職員がサポートして続けられるよう支援されている。お天気の良い日には 利用者の布団を順番に干しており、気持ちよく眠れるように支援されている。</p>	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価)</p> <p>「できること」「わかること」は極力ご本人にさせていただき、職員は事故が起こらぬよう見守りをしている。物を動かしたり、わかりやすい目印を付けたりし「わかること」を増やせるよう配慮もしている。</p>	